

会議概要附属機関等の名称 安曇野市上下水道事業経営審議会

- 1 会議名 令和3年度 第2回 安曇野市上下水道事業経営審議会
- 2 日時 令和3年7月26日(月) 午後2時から午後3時30分まで
- 3 会場 本庁舎 会議室307
- 4 出席者 保尊委員、大江委員、土肥委員、赤沼委員、加々美委員、清澤委員、
二木委員
- 5 市側出席者 堀内上下水道部長、奥村経営管理課長、横山上水道課長、石川下水道課長
二木維持管理係長、長崎下水道整備係長、中嶋庶務担当係長
本郷庶務担当係長
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0 人 記者 0 人
- 8 会議概要作成年月日 令和3年8月6日

協議事項等

○会議の概要

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
- (1) 安曇野市下水道事業経営戦略改定等に向けた日程について
- (2) 安曇野市下水道事業経営戦略改定(案)について
- (3) 下水道事業経営戦略改定(案)に対する質問及び意見の提出依頼について
- 4 その他
- 5 閉会

○議事の概要

- (1) 安曇野市下水道事業経営戦略改定等に向けた日程について
(資料に沿って事務局から説明)

<質疑なし>

- (2) 安曇野市下水道事業経営戦略改定(案)について

- ①「4投資・財政計画(収支計画)」
ア 投資についての具体的取組み
(資料に沿って事務局から説明)

<質疑>

委員：処理場施設の農集の更新金額がだいぶ違うが、何か理由があるのか。流入水の影響で傷みやすいとか、理由があるか伺いたい。

事務局：機械の大きい小さいもある。下水道公社で維持管理を行っていただいている中で、金額の大小はあるが、手を入れたほうが良い機械をピックアップしながら維持していく。

委員：流域下水道の負担金は補償をたしてあるか伺う

事務局：こちらは建設費のみである。

委員：管路を流域下水道に接続するが、どこからどこまでがどちらで負担するの

か。

事務局：流域下水道への接続は安曇野市がすべて負担する。長野県の負担は一切ない。全国的な傾向であるが、地元負担がないと長野県での積極的な整備はしてもらえない。他の地域でも統廃合は莫大な金額がかかるということで、なかなか進まないという話も聞いている。

委員：負担金を流域下水道へ払っているが、県で管路の整備をやってもらえると、後の維持のことを考えると、市が未来永劫管理しなければならなくなりそれが大変であるが、ほかの面で有利になるからこの方法になったという理解でよろしいか。

事務局：流域の負担金の中で工事をしてもらう。

イ 財源についての具体的算出方法 (資料に沿って事務局から説明)

<質疑>

委員：使用料のグラフがR7からR8にかけて上がっている。何か理由があるのか。

事務局：これについては、少し時間をいただきたい。

委員：資本費平準化債の先の見通しを教えていただきたい。他会計繰出金が減ってくると補填財源が減ってくるので、平準化債を借りていかなければならなくなる。どのような検討がされているのか。

事務局：各年度末の現金が10億円程度になるようにしている。まだ具体的に何年度というのは出ていないが、起債残高、償還金が減っていくので、平準化債の借入も減少しているので長い期間借り入れをするということにはならないと思う。

事務局：資本費平準化債は、わかりやすく言えば借金を返すための借金で、あまり借りないほうがいいが、借りないと経営が成り立たない。最小限で借り入れをしていくことになる。

委員：借金を返すための借金ということか。

事務局：合併してすぐに下水道を整備することが急務であったため、一気に整備した。すべて借り入れをしたため、一気に償還が始まった。どうしても無理が出てくるがそれが今の時期。これからが正念場ではないかと思う。

ウ 投資以外の経費について (資料に沿って事務局から説明)

<質疑なし>

エ 財政計画の概要 (資料に沿って事務局から説明)

<質疑>

委員：収益的収支の料金収入が、R7からR8は16億6800万から17億5300万に増えている。損益を見ると増えていない。他会計補助金は減っており、先ほどの使用料収入のグラフの上がり方が、リンクしているのではないかということ伺いたい。使用料収入を増やして、収入額を合わせているのではないか。根拠を伺いたい。

事務局：料金については確認中なので、時間をいただきたい。

委員：資本的収支のグラフを見ると、収入に対して支出のほうが多いのでそれを何で補填しているのか。なぜ補填財源の数値がここへ出てくるのか関連が

よくわからないので、わかりやすい表を作っていただきたい。

事務局：支出に対して収入が不足となる補填の財源は、例えば減価償却費は支出を伴わない費用であるため、そういったものを充てて補填している。

収支計画には財源がどのようなものかを記載しており、資本的収入が資本的支出に不足する額があり、それをどのように補うかが補填財源である。こちらでお読み取りいただければと思う。

事務局：補足すると、マイナス部分をどう補填するかということについて、農業経営をしている場合、軽トラを買ったとすると、支払はその年で終わるが、経理上減価償却という考え方があり、耐用年数が5年位だと思うが、5年間均等に減価償却分を計算上、引かなければいけない。引いた分は実際お金を払うわけではないので、補填財源に回せるということで企業会計は成り立っている。

委員：収益的収支はランニングコストで、資本的収支は建物を造ったりというものだと理解すればよいか。

事務局：上段は経常的な運営で、プラスマイナスで利益が出る。下のほうは投資的経費で、更新費用や建設費用が資本的収支という考え方。

② 「(2)収支計画に未反映の事項及び今後検討予定の取組み」

(資料に沿って事務局から説明)

<質疑>

委員：明科の処理場のあと利用の状況によっては耐震補強工事が必要であるということは、将来利用する計画が見えているのか、後のことを考えてこの項目があるのか。

27戸の人たちは、安曇野市が維持管理をやっているが、それが今度は27戸にお返しして、27戸でやっていただくことになるのか。

事務局：明科の処理場のあと利用については読めていない。耐震補強の調査について説明したが、それによって耐震補強をしなければならないという想定も考えなければならない。

大口沢については毎年浄化槽の修繕を行ったりしているが、腐食が激しく施設の更新が必要で、新しい施設にした後、皆さんにお返ししたほうが良いのか考える部分はあるが、浄化槽については個々に設置してもらい維持管理してもらおうところである。大口沢についてもこういう話も少しずつ進めていかなければならないということで、記載した。

委員：明科の処理場あと利用について、前回施設を見させていただいた。建設にもかなりお金がかかるという話を聞いた。活断層があり、梓川右岸は多いので、何かあったときにこういう施設を動かすことは可能なのか伺いたい。

事務局：微生物で処理をしているので止まってしまうと、再度動かすことは難しい。2次的に使うことはできるという考えもあるが、維持管理をしていかなければならないので難しい話だと思う。

事務局：補足すると、明科の処理場は2系列ある。現在使っている処理施設は、今の耐震基準の替り目の1～2年前に設計したもので、耐震診断を実施し、今の耐震基準に適合しているかどうかの確認をしなければならない。その結果、適合していれば地震に耐える施設ということになる。

統廃合したときに今の機械をそのまま残すという話は、機械の更新時期に入ってしまうので費用がかかる。そのために、流域下水道へ接続したほうが有効だということで進めている。明科浄化センターは低いところから高いところへ持っていくことになるためポンプ施設となるかもしれない。水処理場はどうなるかということ、災害時に流域に送れなくなったときに、一

時的に貯留する施設として、流域に送れるようになったら送るということでご理解をいただきたい。今のままだと機械を変えなければならないのでそこは経費的にどうか、と考えている。

委員：アクアピアが使えなくなったときに、明科浄化センターを残して、安全策はお金がかかるが、使うことができればと思う。

事務局：機械は使えるものは使うということでやっていく。

- ③ 「(3)下水道事業全体の投資・財形計画（収支計画）」
（資料に沿って事務局から説明）

<質疑なし>

- ④ 「5 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項」
（資料に沿って事務局から説明）

<質疑なし>

- ⑤ 「用語解説」
（資料に沿って事務局から説明）

<質疑なし>

- (3) 下水道事業経営戦略改定（案）に対する質問意見の提出依頼について
（資料に沿って事務局から依頼）

<質疑なし>

その他

委員：表のここを変えたという資料を作ってもらいたい。何が加わり、ここをこう変えたとか、その理由はこうだという資料を作ってほしい。そうすることで前回の計画と今回の計画のどこが変わったということが理解できるのでお願いしたい。

○その他について

事務局から次回の審議会開催について説明

以上